

ガス×機械のシナジーで溶接周りのトータルコーディネート

第四次産業革命でAIやIoT技術が発展し、人手不足や働き方改革の推進による製造業の自動化設備・省人化設備投資が活発化。当社でも1980年頃から国内外で溶接用ガスのみならず、溶接機、溶接用ロボットを販売しており、お客様一人ひとりのニーズに合わせ、幅広いソリューションを提案しています。

▶ 当社の機械事業の歴史と事業紹介

当社は創業当初より、溶接関連事業に着手し、溶接材料、溶接用ガス、溶接機器の販売を行ってきました。

『ロボット普及元年』と言われる1980年以降、当社は自動車部品メーカーを中心に、溶接ロボットを全国的に営業活動を強化。

溶接品質に関わる、溶接材料や溶接ガスに併せて溶接ロボット・装置を取り扱い、ガス×機械のトータルコーディネートをご提案しています。

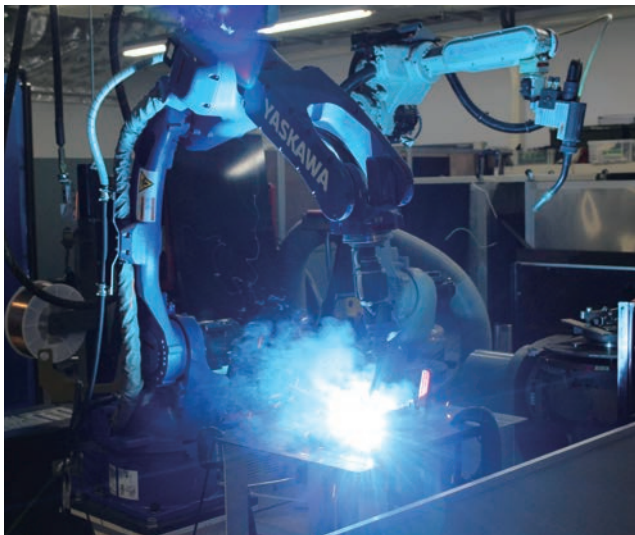
事業紹介

溶接、機械事業では、溶接用混合ガスや溶接材料、ワイヤなどの消耗品、(株)ダイヘン製の溶接機を販売しており、自動車関連では、(株)安川電機製の自動車関連の産業用ロボットと周辺装置全体を販売しています。

事業規模

日本ロボット工業会が発表している溶接関連ロボットの国内市場の出荷金額は2015年361億円、2019年では400億円※と増加。当社は、(株)安川電機、(株)ダイヘン、(株)神戸製鋼所製溶接ロボットを取り扱う国内のトップリーダーとして、ロボット・溶接装置の国内売上高も、2015年度65億円から2019年度87億円と増加しています。

※参照:日本ロボット工業会「マニピュレーター、ロボット統計生産・出荷実績」



(株)安川電機製の溶接用ロボット

海外での取り組み ▶ 溶接コンテスト in インドネシア

溶接技能の伝承や海外人材育成支援を目的にインドネシアでは2016年からは日本溶接協会やインドネシア政府からの支援を受け、「溶接コンテスト in インドネシア」を実施しています。2019年には600名以上の参加申し込みがあり、年々盛り上がりを見せています。

イワタニ-API/IWS溶接コンテストの様子



▶ 中央研究所の「溶接デモルーム」について

当社の研究開発拠点である中央研究所には、様々な溶接用シールドガス・溶接材料・溶接機（アーク溶接、プラズマ溶接、レーザー溶接）の組み合わせでデモンストレーションが可能な『溶接デモルーム』があります。溶接に携わるトータルコーディネーターとして、溶接ロボット6セット、溶接ワイヤーを100種類以上を常備し、

溶接用のシールドガスも、アルゴンや炭酸ガス、ヘリウム、水素などを、様々な組成のガスでテストが可能です。ガスメーカーならではのノウハウを盛り込み、お客様のお困り事を解決するための溶接実験が出来るデモルームとして関心を集め、2019年度は177件の対応を行いました。

相談事例

近年、自動車の主要部品である足回り部品は、防錆性能を高める為に鋼板に特殊なメッキを施しているが、溶接時にこのメッキが溶接不良を起こし、溶接工法や溶接条件に困っている。

当社の解決案

お客様の製品を支給頂き、溶接ガス、溶接材料、溶接機の最適な組み合わせと溶接条件を実験をもとに検証し提案しました。



溶接デモルームでお客様向けの最適解を探る

▶ WEB溶接技術セミナー

6月からは、お客様への技術支援や接点強化、新規顧客獲得を目的として、溶接デモルームを活用したWEB溶接技術セミナーを開始しました。自動車部品メーカーなど製造業のお客様を中心に集客を行い、テーマ別のセミナーを実施。溶接工程で発生しやすい課題とその改善提案や最適な溶接機の紹介など実機を活用した技術講習を行っています。実際に参加された

お客様からは「コロナ禍でこのようなセミナーがあるのはありがたい」「WEB開催で参加しやすかった」などのお声をいただきました。WEB溶接セミナーには現在までに、総勢106社379名が参加いただいております。ご好評をいただいております。



WEB溶接技術セミナーの様子

今後のスケジュール

- 10月23日、26日開催
セミナー名：
[know-why法で学ぶ「酸欠」の危険性と安全対策](#)
- 10月27日、28日開催
セミナー名：
[クラウド監視による空気圧縮機](#)

▶ 今後に向けて

産業用ロボットの販売台数は2019年度1,100台強であり、2023年度には40%増の1,550台を目指しています。国内のみならず、自動車関連の成長市場である

中国、東南アジア、米国などの海外の日系企業に向け、WEBを使用した溶接セミナーの配信や人的資源の投資と技術支援と商品拡販を図っていきます。